

食中毒原因微生物リスク評価指針の構成（イメージ例）

- * この構成（イメージ例）は、想定されるリスク評価項目をたたき台として網羅したものである
- * 項目の構成、追加すべき項目（細目）、当面不要な項目、優先的に起草作業を進めるべき項目、内容のイメージ等について、専門調査会での議論をお願いしたい

I. 序論

1. 背景

2. 定義

- コーデックスにおけるリスクアセスメントの定義
- 微・ウ専調会に課せられる食品健康影響評価（リスク評価）には、コーデックスにおけるリスクアセスメントの手順を踏まず、「専門家の意見」や「科学的助言」を返すことが必要なものもある。

3. 理念（評価指針の考え方、微・ウ専調会の責務）

4. 目的（食品安全基本法との関連も）

5. 範囲（細菌、ウイルス、原虫に加え、細菌毒素も対象とする、食品と水を対象とすることなど）

II. 評価案件の選定

1. 諮問による場合

（ア）諮問に当たっての食品安全委員会とリスク管理機関の役割と連携（協同で確認、準備すべきこと）

（参照：連携・政策調整の強化についての関係府省申し合わせ）

例：リスク評価の目的や範囲の明確化、求める結果（質問事項）の明確化、リスクプロファイルの作成、リスクアセスメントポリシーの提示

（イ）諮問内容の決定

- ① リスク評価の目的、範囲の明確化
- ② 求める結果（質問事項）の明確化
- ③ リスクプロファイルの作成
- ④ リスクアセスメントポリシーの提示
- ⑤ リスクコミュニケーションの必要性、範囲、方法

2. 自ら評価による場合

（ア）選定用件の必要条件（リスクアセスメントを行わなければならない必然性、目的、どのように結果を活用するのか？どんな質問に回答するのか？）

(イ) 優先順位付けの方針

① 利用すべき情報、利用可能な情報

現在の統計（食中毒統計、感染症による統計）に基づく被害実態の推定
社会的影響の大きい事例

② 優先順位付けの方法：①の情報の扱い方

(ウ) 評価事案の決定

① リスク評価の目的、範囲の明確化

② 求める結果（質問事項）の明確化

③ リスクプロファイルの作成

④ リスクアセスメントポリシーの提示

⑤ リスクコミュニケーションの必要性、範囲、方法

Ⅲ. リスク評価

1. 全体のプランニング、アプローチ

2. 評価内容の構成

(ア) Hazard Identification

(イ) Exposure Assessment

(ウ) Hazard Characterization

(エ) Risk Characterization

それぞれについて

① 内容

② 必要なデータの種類

③ データの収集方法、提供源

④ データの選別方針（質の確保、重み付けなど）

⑤ これ以外の手法によるアプローチ

3. 評価手順

* 条件（及び仮定）整理、アプローチ選択、モデルイメージの作成ならびにそこに使うデータの特選、評価の修正、再試行など

* 評価方法が多様であること、具体例を盛り込む

4. 評価の形式

(ア) 定性的

(イ) 半定量的

(ウ) 定量的

➤ 決定論的

➤ 確率論的

*それぞれの概要、目的、長所、短所

5. 評価における WG 設置

- 必要に応じて設置が可能であること

6. リスク評価実施中のリスクコミュニケーション

- リスク管理機関とのリスクコミュニケーション
- データ提供者とのリスクコミュニケーション

7. 評価結果の提示

1. 評価結果の形式

- 評価事案の選定時の、評価の目的や諮問内容に対応
- 事例

2. 評価結果検証

- 検証に必要なデータ
- 検証方法

3. リスクコミュニケーションの必要性、範囲、方法

IV. 答申後の報告、リスク管理措置の効果の評価

付属. 微生物学的リスクアセスメント事例